

メール利用と子どもたちの現状

魚住絹代

於「ヴァーチャル社会のもたらす弊害から
子どもを守る研究会」

May 22, 2006

いま、子どもに起きていること

—学校現場から—

■ 基本的な社会的スキルの未発達

- 行動・感情のコントロールが苦手
- 忍耐、集中力、規範意識の欠如
授業が成立しない、人の話が聞けない、待てない

■ 対人関係が未熟

- コミュニケーション能力の不足
- 自己本位な対人関係、共感性の乏しさ
- 傷つきやすさと攻撃性の高さ
傷つける言葉遣い、些細なことでトラブル、いじめ

■ 問題解決能力の不足

- 粘り強い試行錯誤が苦手 瞬間的な反応は得意
- 肥大した万能感と乏しい現実能力のギャップ
- 現実がうまくいかないと逃避的世界にのめり込みやすい

■ 両極端で短絡的な反応

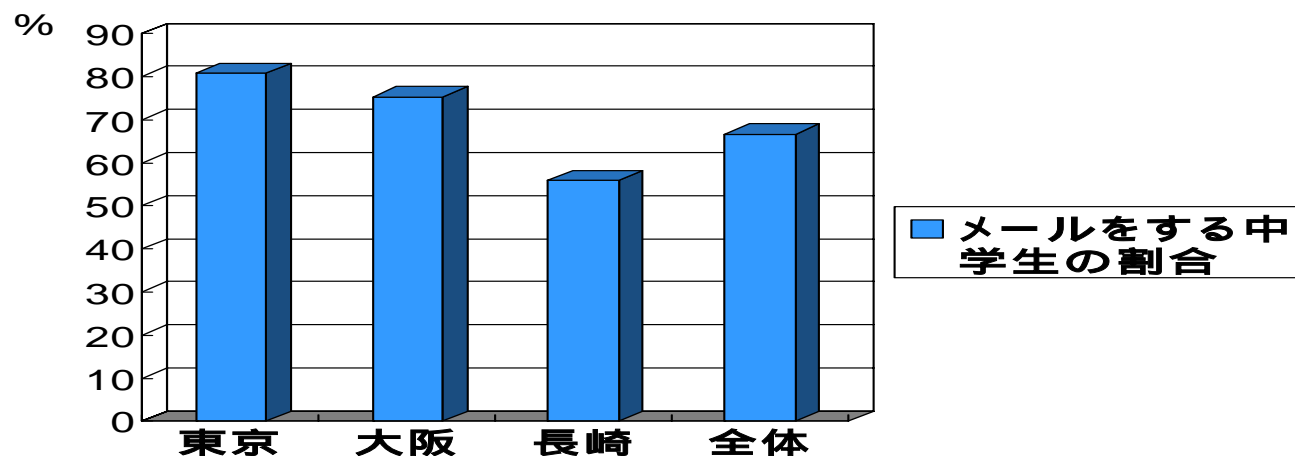
- サイコーかサイアクか
- 回避か攻撃か

「メディアの利用状況と認知などへの影響に関する調査」(2005)について

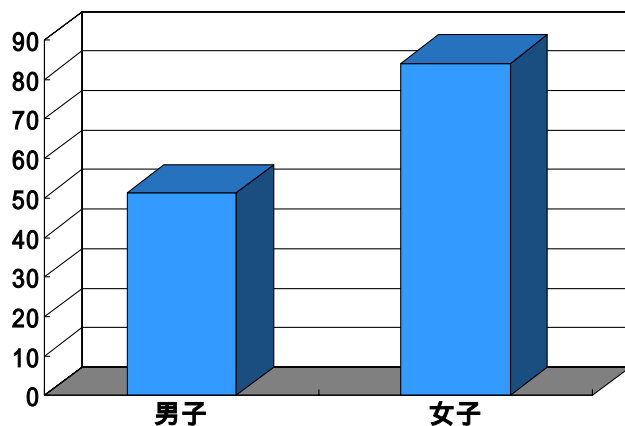
- 大阪府、長崎県、東京都の教育委員会、各中学校の協力を得て実施
- 質問紙方式による調査
- 中学校(全10校)の生徒2381人とその保護者を対象
- 生徒2149名、保護者1406名より有効回答を得た
- 単なるメディア利用の実態調査にとどまらず、認知、行動、感情の傾向や親子関係、生育歴についても調査
- 調査結果の集計には、学校の教職員や教育委員会の職員の協力を得た

中学生におけるメール利用の実態

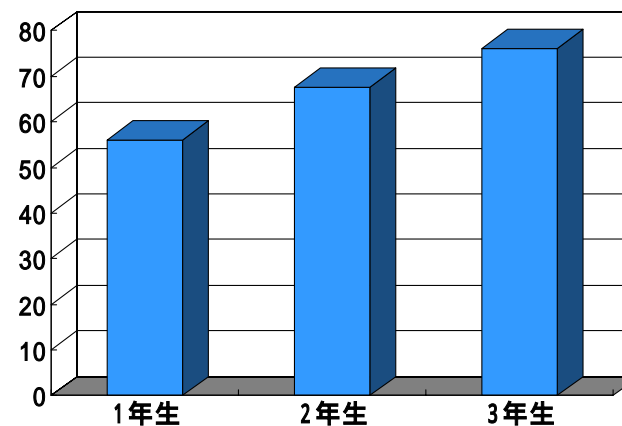
■ 約2/3の中学生がメールを利用



■ 女子に高い利用率

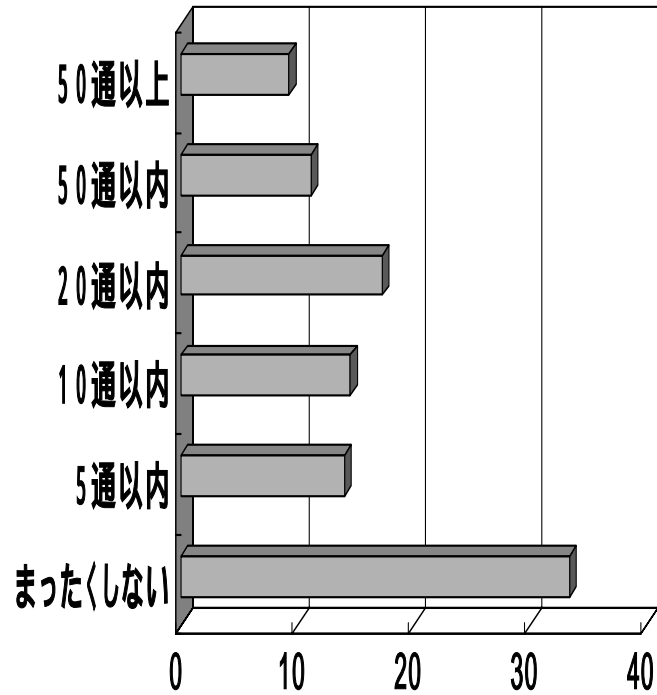


■ 学年別の利用率

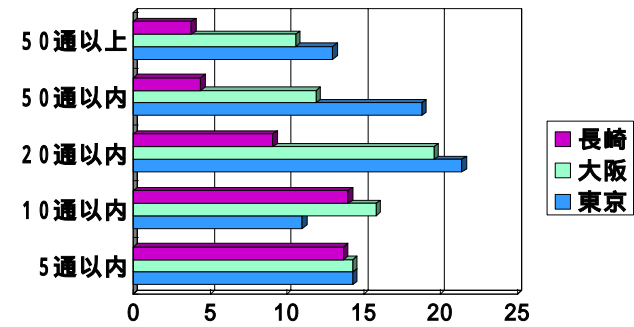


メールの利用頻度

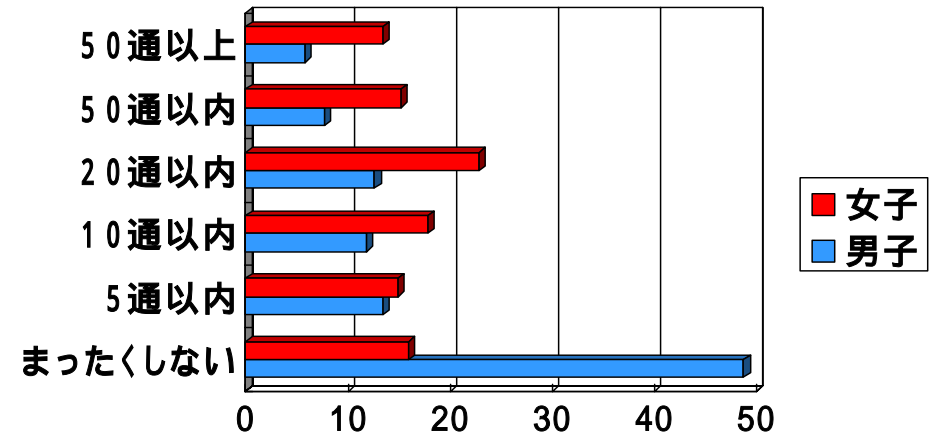
■ 1割弱の子が、1日50通以上やり取り



■ 都市部で高い



■ 女子に多いヘビーな利用



メール依存の状況

- 「一日五十通以上やりとりする」と回答した中学生は全体の9.3%
- メール依存の症状(一日五十通以上やりとりする中学生での割合)
 - できないとイライラしやすい(22.9%)
 - 睡眠・生活リズムの乱れ(29.8%)
 - 学校のことがおろそかになる(12.9%)
 - 身体症状(11.1%)

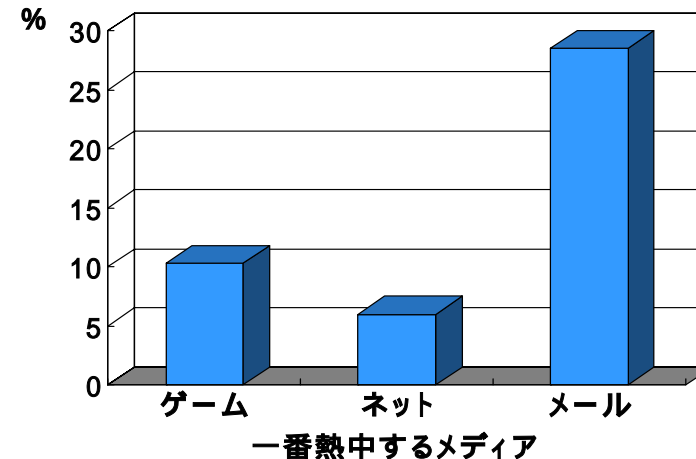
メールの利用頻度が高い子の特性(1)

メールの利用頻度と関連が見られた項目

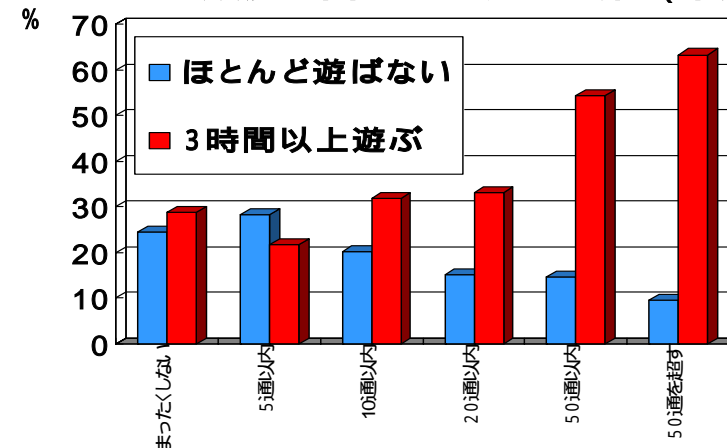
■ 対人関係

- 友達が多く、外でよく遊ぶ
- 活動的で好奇心旺盛
- 対人関係にどん欲で社交的
- 両極端に変動しやすい
- 注目されるのを好む
- 高い共感性
- 他者への依存傾向
- 家族より友達を重視
- 「いじめたことがある」と答えた子の割合が高い

■ 「対人関係にとっても積極的」(保護者回答)

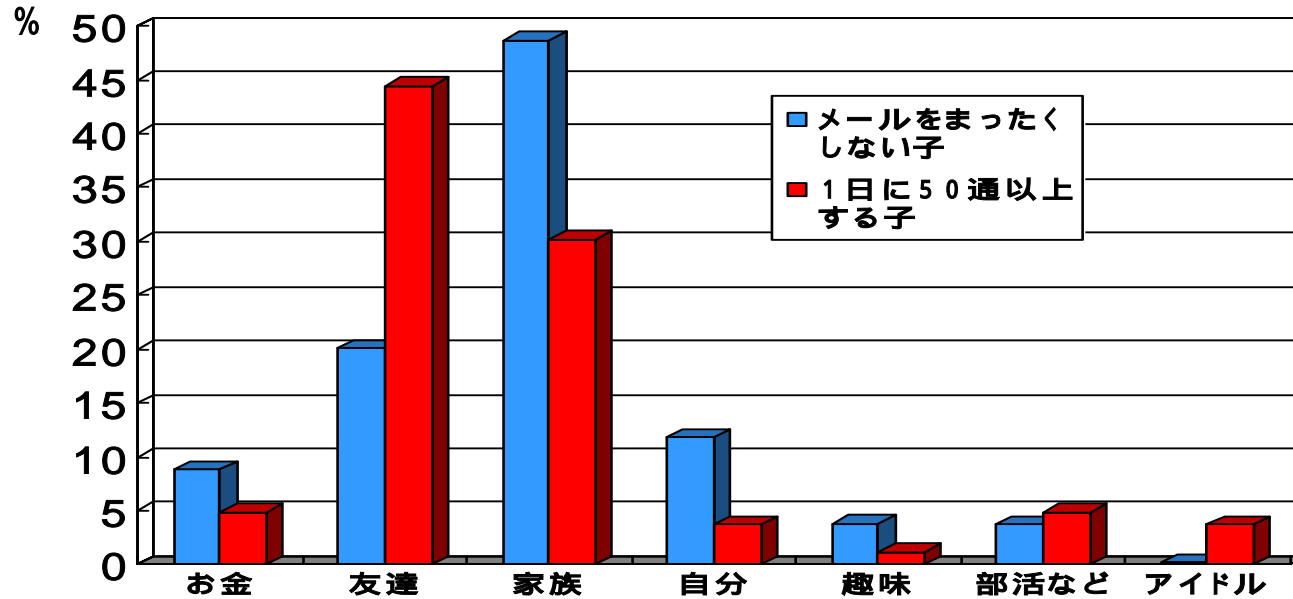


■ メール利用頻度と自宅外で遊ぶ時間(本人回答)

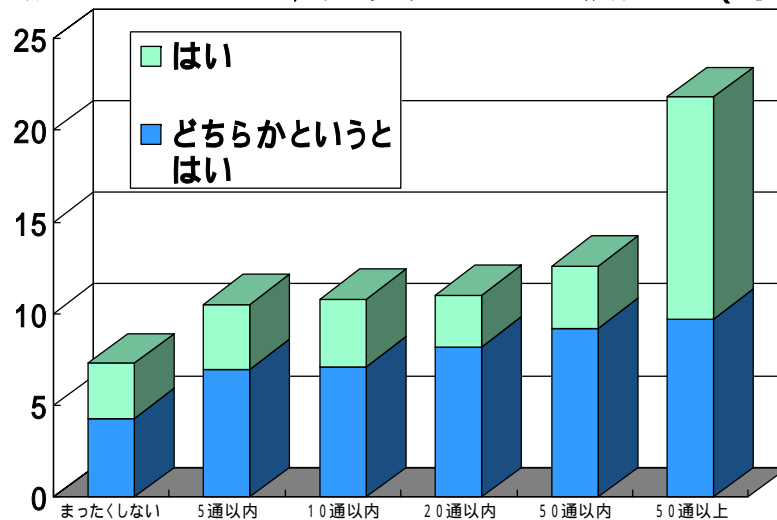


依存的で不安定な対人関係

■ 一番たいせつなものは「友達」(本人回答)



■ 友達になったり、絶交したりが激しい(本人回答)

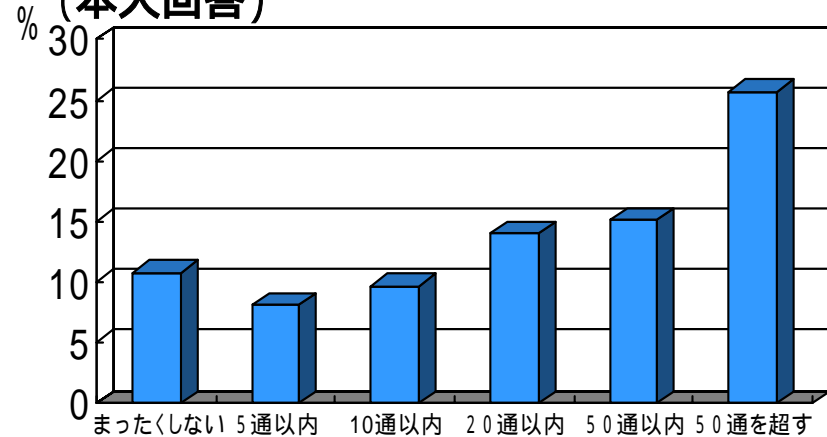


メールの利用頻度が高い子の特性(2)

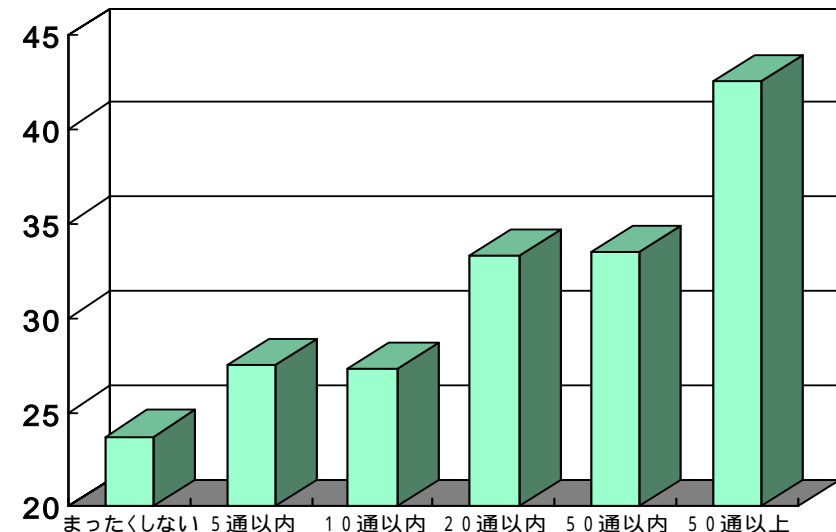
■ 認知や感情、行動

- 二分法的な思考
- 喜怒哀楽が激しい
- 気まぐれで衝動的
- 気分のアップダウンが激しい
- 暴力に対して肯定的
- 人が信じられない

■ 「あまり考えずに危険なことをしてしまう」 (本人回答)



■ 元気と落ち込みの気分の波が激しい

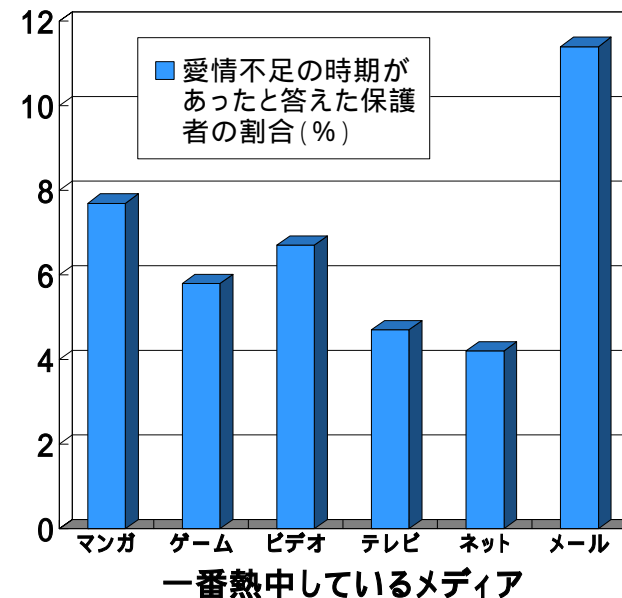


メールの利用頻度が高い子の特性(3)

■ 親子関係

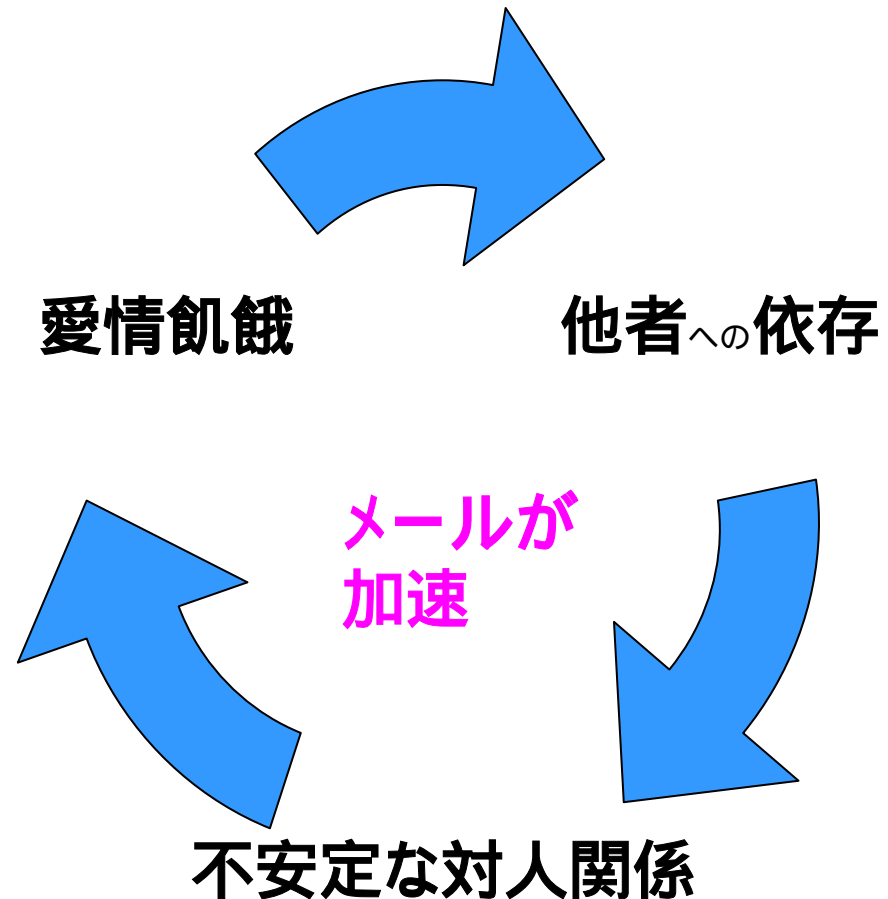
- 反抗的な傾向
- 幼少期に愛情不足
- 親との会話が乏しい
- 否定的な養育態度
- 親にわかってもらえていない

■ 就学前に愛情不足の時期があった(保護者回答)



メール依存の構造と潜在的危険

- 愛情飢餓、依存、不安定な対人関係が循環構造を形成
- メールが悪循環を加速
- 恋愛依存、対人関係依存に陥りやすい環境を生む
- メール依存の子は、非行や犯罪の危険にも無防備になりやすい
- 愛情飢餓型の非行と構造が重なる部分も大きい



中学校で実際に遭遇する 携帯をめぐる非行や問題行動(1)

■ 性問題・非行に関するもの

• 同年代が相手

- 恋愛トラブルや妊娠
- 関係の入れ替わりが速い
- 瞬時に情報が回覧、回復不能の傷を受ける危険も
- 対人不信、不安感の増幅
- 生活リズムの乱れ
- ゆがんだ性知識
- AVまがいの性的征服欲(男子)

• 成人異性が相手

- 18歳未満でも簡単にアクセスできるシステム
- 愛情に飢えた女の子達を簡単にだます大人達
- 同年代とつきあえない未成熟な大人
- 子どもの側から、経済的利得と愛情の代用を求める一面
- 営利的、犯罪的意図をもった大人も接近

中学校で実際に遭遇する 携帯をめぐる非行や問題行動(2)

■ 家出や危険な交友関係 への入口

- 同じ趣味や嗜好を持ったメ
ルトモからの誘いで家出や危
険な行動に発展するケース
が多い
- 防ぐのが難しい一面
 - 保護者が把握しにくい
 - 不特定で、遠隔の人物と
容易に結びつく

■ 携帯サイトの問題

- アダルトサイトの利用
 - 全体の2.4%が「よくあ
る」と回答
 - ただし、メールを50通以
上やりとりする子では、5.
3%、3時間以上ネットを
する子では10.8%
- 利用料をめぐるトラブル
 - 身近な中学生でも多い

学校での携帯電話の指導の難しさ

- 学校の規則としては禁止しているところが多い
- 実際には、持って来ている子が少なくない
- 規則の有名無実化
 - 首尾一貫した対応がとりにくい
 - 規則は破ってもいいもの
 - ほかの規則も有名無実化
- 大人に対する不信感を生む

子ども本来の育ちを守るために

- ベースは家庭・親子関係
- 安心して安全に遊べる環境を取り戻す
- 学校でもSSTや対人関係訓練など、社会性を育む授業を
- メール・ネット利用に潜む危険性を知らせる
- 子どもの有害サイトへのアクセス規制を厳格にする
- 子どもを利用・搾取した犯罪の罰則を強化
- 社会全体の仕組みが子どもの育ちを守るという視点になること